



かめっ子

学校だより 9月号
令和7年9月 1日
足立区立亀田小学校
校長 井上 龍夫

「うまくいかないときこそ、次への工夫を」

校長 井上 龍夫

記録的な猛暑で幕を開けた今年の夏休み。学校のプールも中止が多くなってしまいました。毎年、「子どもたちは長い夏休みを無事に充実して過ごしているだろうか」と、心配と期待をもって私たち教職員も夏休みを過ごしています。災害や事故のニュースに不安になることもありましたが、今日はひっそりとしていた校舎に子どもたちの明るい声が響き、新しい気持ちに切り替わりました。子どもたちが元気でこの場所にいることは、もうそれだけで本当に幸せなことなのだ、改めて感じます。この間見守っていただいたご家庭や地域の皆様に心より感謝致します。

これから冬休みまでの間には、運動会や音楽会など大きな行事も多く、学びや友達との絆を深めるチャンスがたくさんあります。子どもたち一人一人が、自分の力を発揮できる実り多い季節になることを願っています。

さて、先日私は知人から、この猛暑の中、お子さんが日々就職活動に汗を流しているという話を聞きました。私たちのような教員になるための採用試験もこの時期に行われています。そこで今回は、「経営の神様」と言われた、松下電器（現在のパナソニック）の創業者・故松下幸之助さんの入社試験におけるエピソードについて、紹介したいと思います。

ある年の試験で、松下さんは受験者に「あなたは運がいいと思いますか？ 悪いと思いますか？」と質問しました。そして、「自分は運が悪い」と答えた人は不合格にし、「運がいい」と答えた人を採用したそうです。

なぜ、そのような基準にしたのでしょうか。松下さんはこう語っています。「運が悪いと思う人は、何か失敗したとき、つい人や環境のせいにしがちです。けれど、『自分は運がいい』と思う人は、失敗しても『次はこうしよう』と工夫し、努力する姿勢をもってののです。」

これは、子どもたちにも、私たち大人にも当てはまることだと思います。うまくいかないことがあったとき、「指導者や仲間が悪い」「環境が悪い」と考えてしまうと、成長のきっかけを見失ってしまいます。逆に、「次はどうすればうまくいくな」と自分にできることを探す姿勢は、未来を大きく変える力になります。

前述したように、これから先は日々の学習以外に、挑戦する機会も失敗する機会もたくさん待っている時期を迎えます。だからこそ、結果だけでなく、「どうすれば次につながるか」を一緒に考えることを大切にしてほしいのです。子どもたちが「うまくいかなかった経験」から学び、前向きに工夫する姿を、学校とご家庭が手を取り合って支えていければ幸いです。

今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

